

中部経済新聞

2019年(平成31年)
4月1日
月曜日

発行所
中部経済新聞社
〒450-8561
名古屋市中村区
名駅4-4-10

編集局 052(561)5212
読者課 052(561)5216
広告部 052(561)5213
事業部 052(561)5675
総務部 052(561)5215
東京支社 03(3572)3601
©中部経済新聞社2019
電話052-665-1234

音と映像で人をつなぐ
教育産業株式会社
本社 名古屋市中区九丁目二丁目一八番一号
TEL 052-997-1301
FAX 052-997-1302
http://www.ksg.co.jp

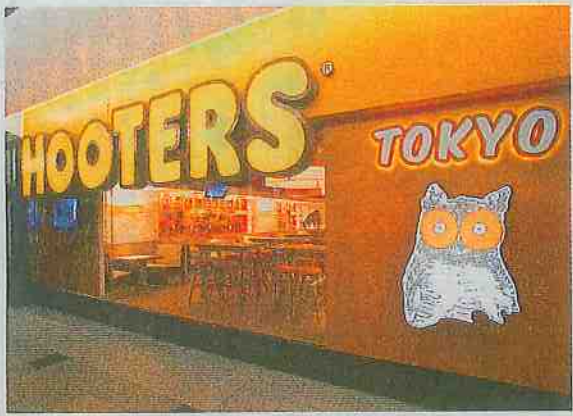
尾張・知多・岐阜
瑞浪市で関連グッズお披露目
新連載「光秀がくる」
明日を拓く経営
14面
オートプラス、マイカーを広告に活用
角野製作所、小水力発電装置の普及に本腰



きょうの紙面

2面
感から6割が値下がり
名証上場企業、3月の株価騰落率
3面
系、曲面間仕切り短納期化
NC加工設備導入で

「フーターズ」再生支援へ



豊田産業グループが再生支援に乗り出す「HOOTERS(フーターズ)」

豊田産業グループ

3月下旬にカジュアルレストラン「HOOTERS(フーターズ)」の国内運営会社が民事再生法の適用を申請したことを受け、豊田産業(本社刈谷市、豊田晋久社長)グループが再生支援に乗り出す。すでに再生スポンサー契約に基本合意した。現6店舗の営業は継続し、全従業員約350人の雇用を維持する。豊田産業グループは飲食業を多角的に展開し、事業再生の実績も豊富。ノウハウを生かしてフーターズの経営を早期に再生軌道に乗せるとともに、首都圏での事業拡大につなげる。

(岩崎幸)

従業員350人の雇用維持

事業継承の新設 分割会社を子会社化 首都圏の事業拡大

商業開発(本社名古屋市中村区)は、エッチジー(本社東京)を継承する新設分割会社を全額自己資金で取得し、100%子会社化する。

また、豊田産業の西宮洋一執行役員(外食事業本部担当)を社長ポストに派遣して業務管理を徹底する。

西宮氏は「スタッフはどの店も優秀。米国本部と交渉しながら、より日本に合った店に変えていきたい」としている。

豊田産業は機械機械部品の製造を手掛ける一方、00年から外食事業部門を立ち上げ、しゃぶしゃぶ店「しやぶらく」、喫茶店「あおい珈琲」などの自社ブランドやフランチャイズチェーン(FIC)加盟店舗を合計54店舗展開。これまでグループ会社を含め、民事再生や事業譲渡5案件を取得した実績があり、すべて黒字化しているという。

都内の店舗網は現在、11年に民事再生法の適用を申請した「ちやんと」から譲り受けた8店舗。フーターズの取得で都内の店舗ネットワークを広げるとともに、運営の効率化にもつながる考えだ。

人手不足直撃、値上げの波

食品や飲料 増税控え家計に影響

4月1日から食品や飲料の値上げの波が押し寄せた。人手不足による人件費や物流費の高騰が直撃。国民年金の保険料引き上げも続き、10月の消費税増税を控えて家計への影響が懸念される。外国人材の就労拡大に向けた新制度が始まり、働き方改革関連法も本格施行。残業時間の上限規制は1947年の労働基準法制定以来約70年ぶりの大改革で、日本発用

コカ・コーラボトラーズ

時事雑感

スマートフォンの普及は、銀行口座やクレジットカード、スマートフォンを併用してのバーコード/QRコードなどでの支払い・受け取りをスムーズにする。率に、韓国が9割、中国が6割、米英が5割程度であるのに対し、日本は2割に留まっている。なぜ日本でカードで済まなかったのか。カードですが、地方の小売店や飲食

総合水処理プラントメーカー
水と人と未来をひらく
FUJIYOSHI
藤吉工業
名古屋・東京・大阪他・全国32拠点 藤吉工業グループ

残業時間の上限規制が始まる。年収107.5万円以上

中日コプロHD、大垣に新会社

ビルメンテナンスなど総合サービス事業を手掛ける中日コプロホールディングス(本社名古屋)は1日、大垣市に新会社を立ち上げる。建設事業などを手掛けるアストロハウム(本社大垣)の清掃事業を譲り受けた。グループ中核企業の中日コプロ(本社名古屋)が事業を担当。ビルや工場の清掃・メンテナンス事業の受注拡大や新規開拓を狙う。(記事は4面に)



中経手帖

名駅からほど近い円頓寺商店街。この週末も多くの人でにぎわっていた。商店街一帯を会場にしたイベントが開かれ、夜まで人の波が絶えなかった。商店街の中に位置する日蓮堂長久山円頓寺前で、100年以上前と変わらないにぎわいの中では、大正、昭和と発展してきた。戦前は広小路、大須とぶ名古屋の三大繁華街と呼ばれ、盛り場多くの人が集っていたという。戦後も早く復興。名古屋タイムスアライヴ委員会が編集した本「名古屋なつかしの街」によると1953年(昭和28年)の名古屋タイムズの記事に、にぎやかな商店街の風景が描写されている。一時は人が激しかった同商店街だが、近年また分

NEWS
ビッグアップ